帰化植物メモ

― 牛乳を汚染するカラクサナズナ ―

廣田伸七

カラクサナズナは茎の長さ10～30cmの中型の雑草である。道端や公園などでも見かける雑草で街中でもよく生育している。例えば東京のド真中、ＪＲ東京駅の丸の内中央口の前にある広場の芝生の中にも春早くから淡黄色の花をつけ，独特な果実をつけているのを見ることができる。

畑地では雑草として余り問題にならないが，飼料作物畑に発生すると強害草となる。というのはカラクサナズナを乳牛が食べると牛乳が「特異な臭いのする牛乳」すなわち「飼料臭乳」になって販売できなくなり，廃棄しなければならず，酪農家に大きな損害を与えるので九州地方の酪農家に最も嫌われている帰化雑草である。

カラクサナズナには特異な異臭があり，これがイタリアンライグラスなどの牧草畑に発生すると，刈取ったイタリアンライグラスのなかにカラクサナズナが混入するのでこうした現象が起きるのである。体重580kgの泌乳牛に１日４kgのカラクサナズナの生草を２日間供与したところ異臭乳が発生し，供与後60時間後の臭気が最も強かったという試験結果の報告がある。

酪農地帯では気をつけたい帰化雑草である。

▲カラクサナズナ・果実

●カラクサナズナ〔アブラナ科〕

Coronopus didymus Smith

ヨーロッパ原産の越年生。北海道を除いてほぼ全国的に帰化しているが特に九州を中心にして暖地に多く分布している。別名としてカラクサガラシ，インチンナズナとも呼ばれている。秋に発生し春先から茎は基部より多くに分岐し斜上したり地表を這ったりする。茎の長さ10～30cm。葉は１～２回羽状に深裂。春から夏にかけて葉腋に花序を出し直径１mmほどの細かい白色～淡黄色の花を咲かせる。果実は２個の球を合わせたような独特な形で大きさは約1.5mm。草全体に特異な臭いがある。

▲カラクサナズナ・成植物

▲カラクサナズナ・花期